

電子書籍交換フォーマット 標準化プロジェクト

(総務省平成22年度新ICT利活用サービス創出支援事業)

代表組織 : 一般社団法人日本電子書籍出版社協会
共同提案者 : 学校法人東京電機大学、大日本印刷株式会社、凸版印刷株式会社、
慶昌堂印刷株式会社、豊国印刷株式会社、株式会社ボイジャー、
シャープ株式会社、シャープビジネスコンピュータソフトウェア株式会社

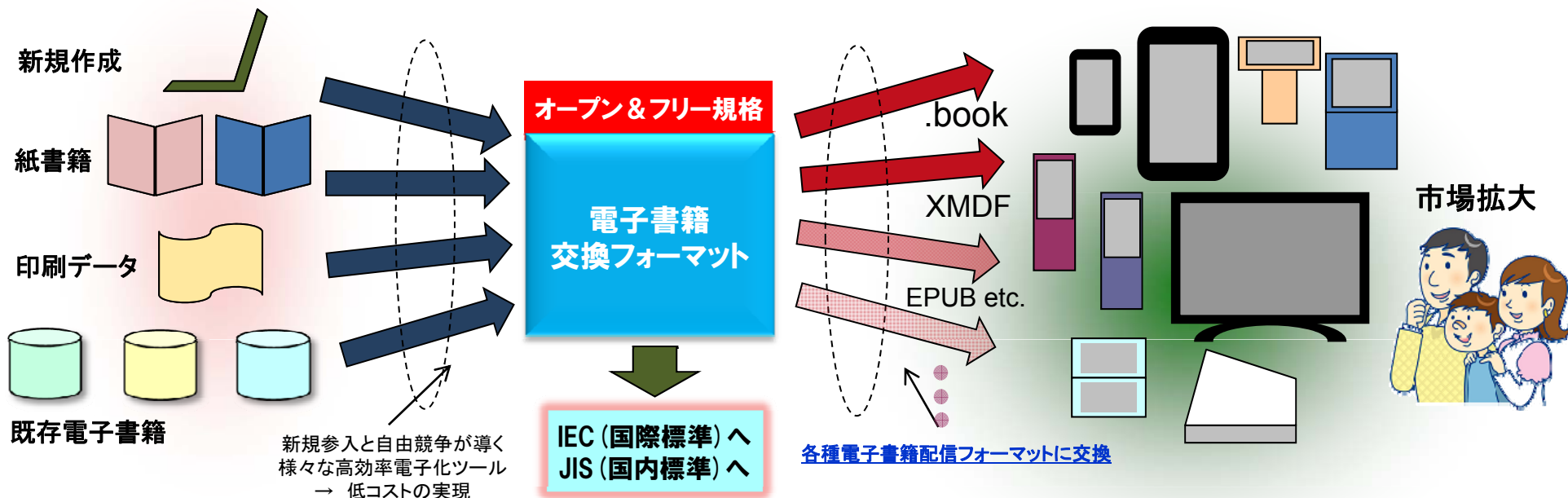
問い合わせ先 : 電子書籍交換フォーマット標準化プロジェクト事務局
ebformat@ebpaj.jp

「電子書籍交換フォーマット標準化プロジェクト」

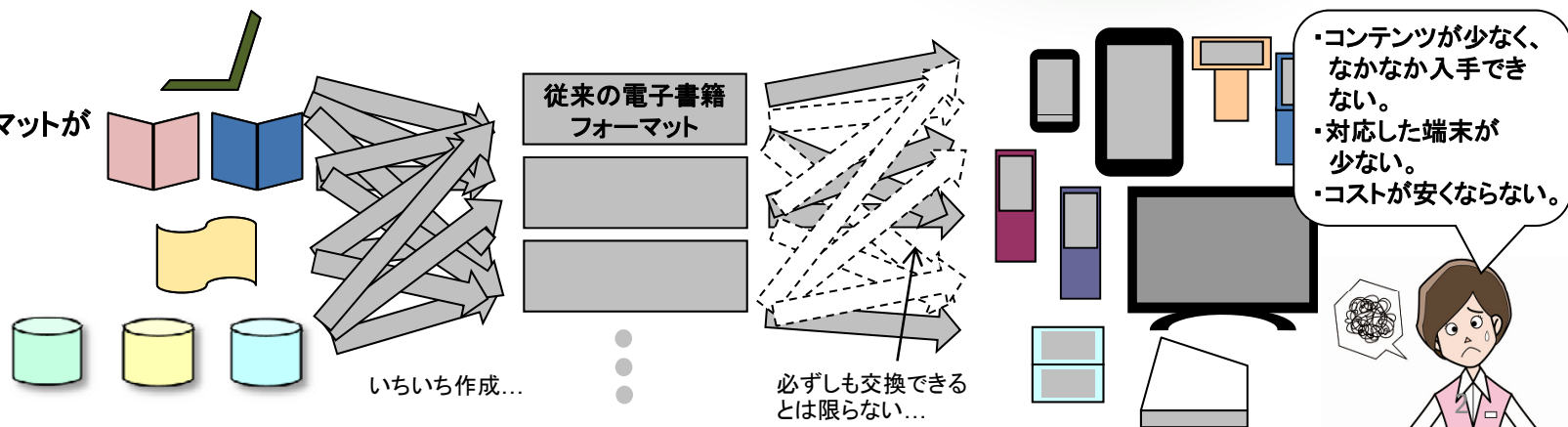
代表組織：一般社団法人日本電子書籍出版社協会
共同提案者：学校法人東京電機大学、大日本印刷株式会社、凸版印刷株式会社、慶昌堂印刷株式会社、豊国印刷株式会社
株式会社ポイジャー、シャープ株式会社、シャープビジネスコンピュータソフトウェア株式会社

オープン（公開）でフリー（利用が無償）な電子書籍の交換フォーマットにより、

- コンテンツ・サービス提供者：コンテンツ提供のコストが削減され、対応端末数が増加し、販売機会・収益が増大する。
 - サービス利用者：コンテンツが増加し、かつスピーディーに入手できる。どの端末でも区別なく、全てのコンテンツが閲覧できる。
 - メーカー・技術ベンダー：異なるコンテンツに合わせて複数のビューアを供給・搭載する必要がなくなり開発コストが削減できる。
- **オープン規格を中心として新規参入・自由競争が喚起され、市場拡大が加速する。**



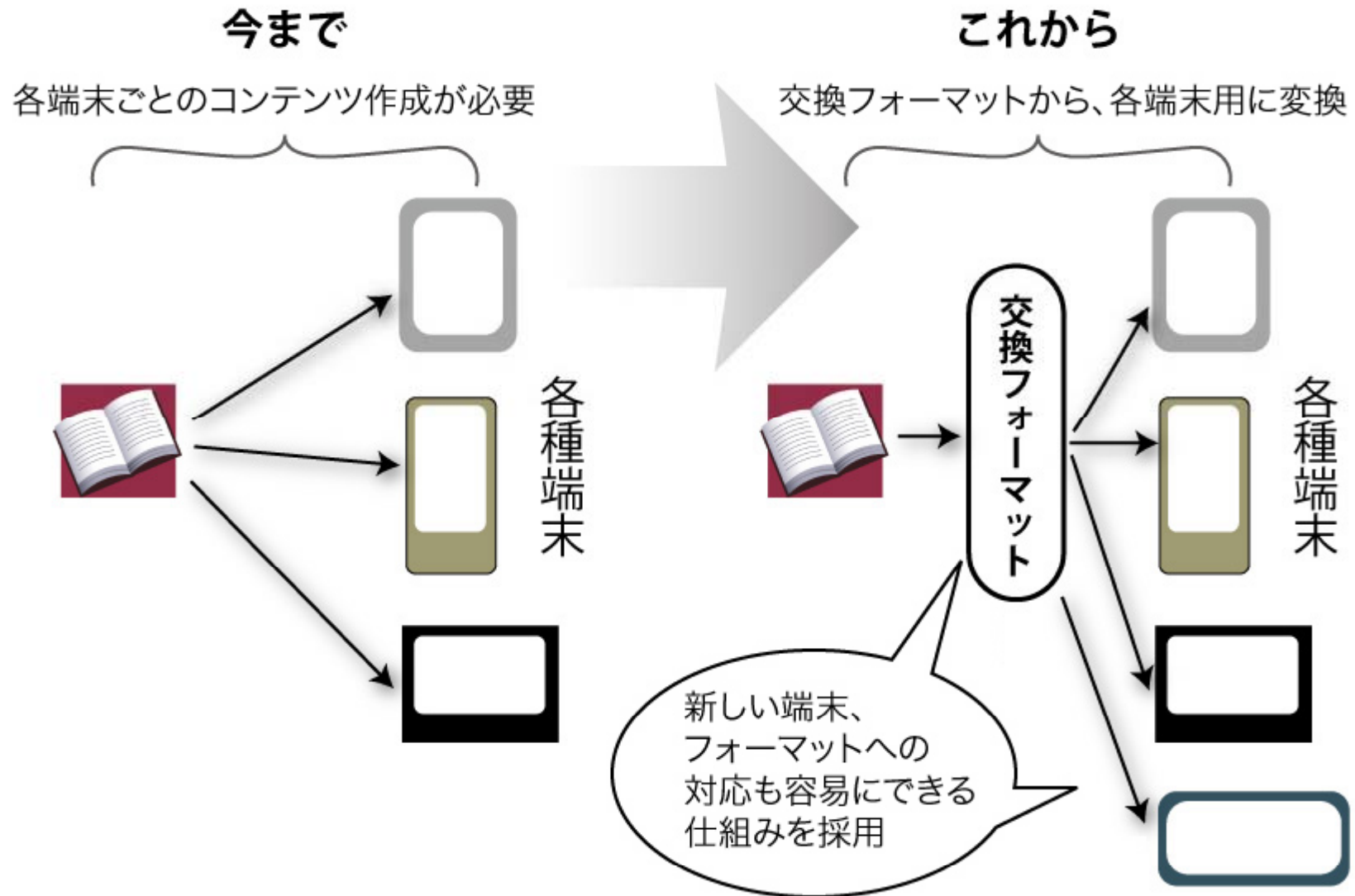
現状：
電子書籍交換フォーマットがないために...



プロジェクト概要

オープン・フリー(誰もが無料で利用)かつ十分な日本語表現力を備えた電子書籍交換フォーマットを開発・策定する。電子書籍に関わる出版社、制作会社、メーカーにとっては、今までより容易に電子書籍、端末、リーダーを制作できる、読者においては豊富な電子書籍を手軽に楽しめる、これから始めたい一個人や企業においても従来よりも大幅にハードルが下がり参入しやすくなる、など多方面にメリットを提供。

なぜ電子書籍交換フォーマットが必要とされるのか



プロジェクトの目的

電子書籍の市場が大きく伸長し、端末の販売が相次ぐ今日。電子書籍コンテンツの生産性を向上し、さらに制作した電子書籍を多種多様なプラットフォーム・端末において利活用できる環境作りが求められている。本プロジェクトは、このような状況において、日本語コンテンツの作成・蓄積を容易にし、かつ再利用しやすい形で行うことのできる「電子書籍交換フォーマット」を開発・策定し、その実証を行うことを目的とする。加えて、その普及や国際標準化のための道筋をつけることも視野に入れる。

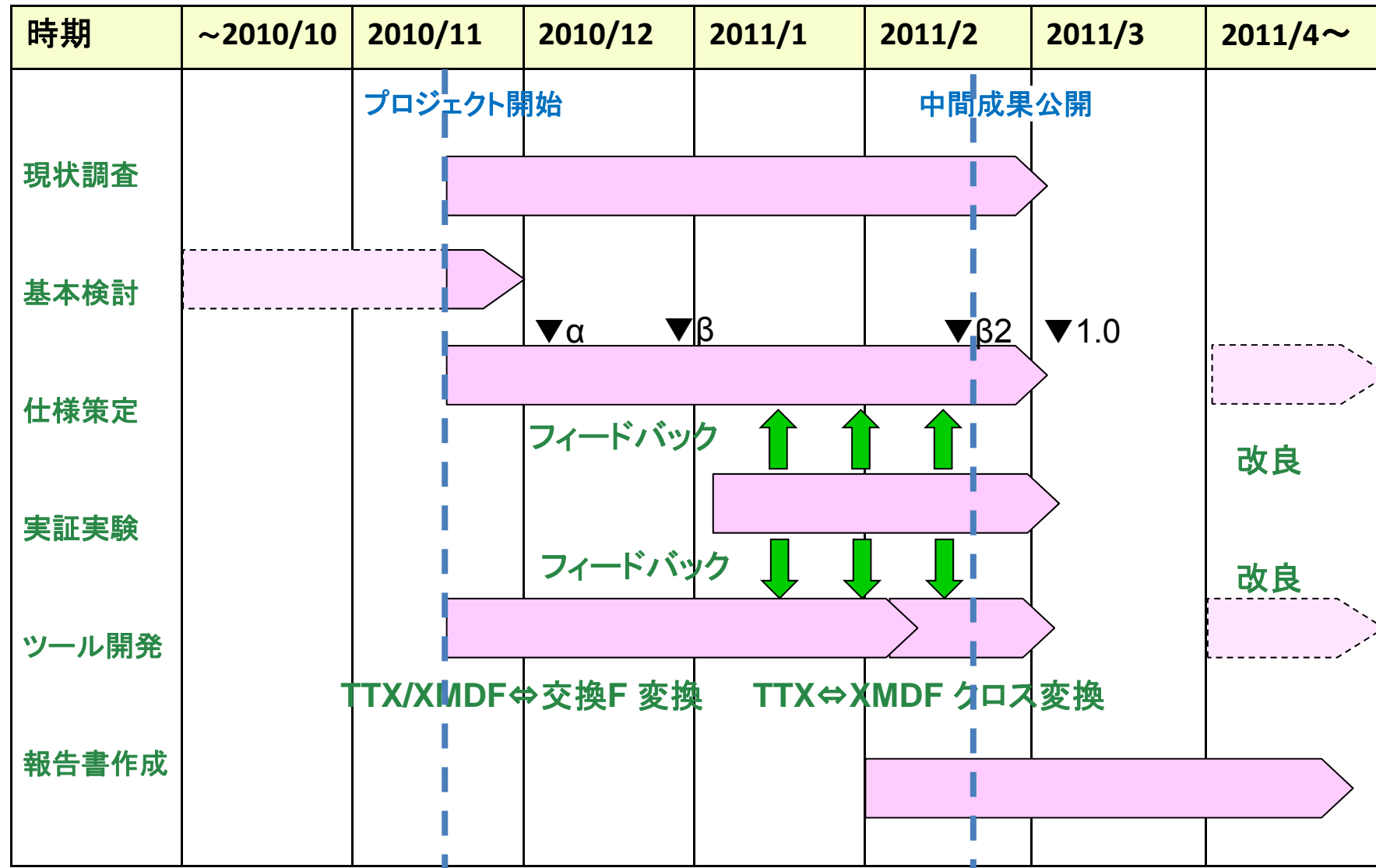
実施体制

	名 称	役 割
代表提案組織	一般社団法人日本電子書籍出版社協会	プロジェクト全体を統括する。
共同提案組織	学校法人東京電機大学	電子書籍の利用状況調査 フォーマット仕様の標準化
〃	大日本印刷株式会社	交換フォーマット仕様の評価・検証 相互変換ツールの評価・検証 フォーマット仕様の標準化
〃	凸版印刷株式会社	交換フォーマット仕様の評価・検証 相互変換ツールの評価・検証 フォーマット仕様の標準化
〃	慶昌堂印刷株式会社	交換フォーマット仕様の評価・検証 相互変換ツールの評価・検証
〃	豊国印刷株式会社	交換フォーマット仕様の評価・検証 相互変換ツールの評価・検証
〃	株式会社ボイジャー	フォーマット仕様策定 TTX \leftrightarrow 交換フォーマット変換ツール開発 フォーマット仕様の標準化
〃	シャープ株式会社	フォーマット仕様策定 XMDF \leftrightarrow 交換フォーマット変換ツール設計 フォーマット仕様の標準化
〃	シャープビジネスコンピュータソフトウェア株式会社	XMDF \leftrightarrow 交換フォーマット変換ツール開発

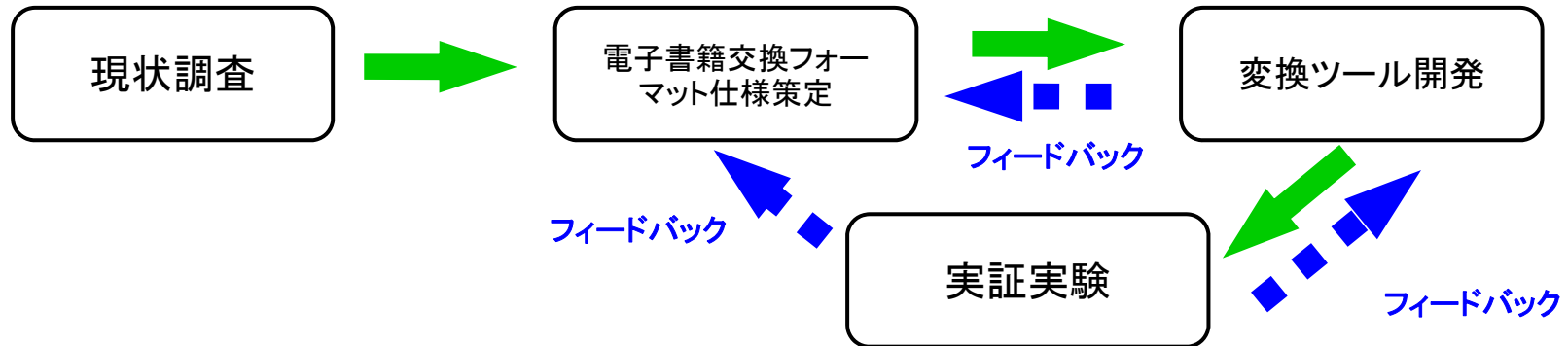
プロジェクトの開発・実証内容

- a) いろいろな端末／プラットフォームで利活用でき、十分な日本語表現力を備えた、オープンかつフリーな、電子書籍交換フォーマットを策定する。
- b) 策定された電子書籍交換フォーマットに基づいて、実際にコンテンツを作成し、既存の電子書籍フォーマットとの変換可能性の実証。これにより電子書籍交換フォーマットが実用性を持ち、十分な機能を持っていることを実証する。
- c) 電子書籍交換フォーマットが、他国において排除されることを防止し、我が国及び他国における政府調達で利用され得るようにするため、国際標準に反映する活動を行う。

プロジェクト実施工程



プロジェクトの成果



成果物	概要
電子書籍フォーマットの現状調査報告	電子書籍フォーマットの国内外の状況や、電子書籍の利用環境を調査する。
電子書籍交換フォーマット	従来の電子書籍フォーマット (TTX, X MDF 記述フォーマット) の機能を包含し、コンテンツの長期利用に適した XML フォーマット
電子書籍交換フォーマット仕様書	上記フォーマットの仕様書
検証用変換ツール	従来の電子書籍フォーマット (TTX, X MDF 記述フォーマット) 上記電子書籍交換フォーマットとの間の双方向変換ツール
検証結果	上記変換ツールを用いた実証結果。 コンテンツ提供者/サービス提供者の側での利用可能性の実証結果。
国際標準化提案の準備	IEC TC100において、国際標準化の提案を進められるよう準備する。

今後の成果展開について

当プロジェクトによって確立された電子書籍交換フォーマットにより、特定の端末に依存しない、コンテンツの長期的な利用を可能にする。コンテンツ普及と端末普及との相乗効果により、電子出版物の蓄積及び利活用が促進され、市場が拡大される。また、国際標準に、我が国で開発した電子書籍交換フォーマットを反映させることで、政府調達でも、同フォーマットやそれに基づいた電子出版物を利活用することができる。このような成果展開のためには、プロジェクト終了後も、各方面との協力や協議を行いつつ、環境整備、普及・標準化活動が必要となることが見込まれる。引き続き、各方面のご助力およびご指導を求めている。

交換フォーマットロードマップ

時期	交換フォーマット	ツールなど	実証・普及
2010年度	<ul style="list-style-type: none"> •.book/XMDFの機能を包含 •日本語ミニマムセット(≒両者共通部分)を定義 	<ul style="list-style-type: none"> •TTX⇔交換F変換 •XMDF記述F⇔交換F変換 •EPUB2.0変換テーブル 	<ul style="list-style-type: none"> •検証目的の変換ツール。 •テキスト機能を主に実証。
2011年度前半	<ul style="list-style-type: none"> •日本語表現対応最終版仕様 	<ul style="list-style-type: none"> •TTX⇔XMDFを交換Fを通じて実現。 •どちらかにない機能については、ログ/メッセージを出すか適切なものは代替機能に置き変える。 	<ul style="list-style-type: none"> •ビジネスに向けた、変換ツールのブラッシュアップ。
2011年度後半	<ul style="list-style-type: none"> •国際標準に向けた(拡張)仕様案 •国際標準化活動 	<ul style="list-style-type: none"> •3rdパーティからツール供給開始(交換Fオーサリングツール、他フォーマットへの変換など) 	<ul style="list-style-type: none"> •商用コンテンツを交換Fで蓄積
2012年度～		<ul style="list-style-type: none"> •交換F用ツールが普及 	

※現時点の予定であり、今後状況に応じて見直すことがあります。